

第 5 回専門委員会（9/26）における提言書（案）の修正意見及び対応について

全般に係ること

修正意見	対応
「社中」は「神楽団体」と表記するほうが適切。	「石見神楽団体」に統一。
「舞い手」に追加で「楽人」も入れてほしい。	文言追加。
「石見神楽」と「神楽」という文言が混在していて統一性がない。統一したほうがよい。	「石見神楽」に統一。

I はじめに

修正意見	対応
「石見神楽を創り出したまち」について、日本遺産の中での石見神楽の説明と整合性が取れているか確認してほしい。 「石見神楽を創り出したまち」の定義について、これを定義するなら「石見神楽」の定義が必要。今回の提言書では「石見神楽を創り出したまち」の定義まで載せる必要はないと思う。	日本遺産の中で「石見神楽を創り出したまち」に係る説明はない。「石見神楽を創り出したまち」とは、石見神楽用具などの発祥の地が浜田という趣旨のため、そのことを定義とするのではなく、文章の中で説明することとした。 ※ 日本遺産の中で「石見神楽」は、ストーリーの構成文化財という位置づけで「石見地域で神職により伝えられていた神楽が明治以降に民衆に受け継がれた氏子神楽。石見地域一帯に伝わりその団体数は 130 を超える。」という説明となっている。

Ⅱ 現状と課題

修正意見	対応
1の中に、「石見神楽団体などの資金減少は、ひいては石見神楽関連の伝統のものづくりへの影響がある。さらに長い目で見れば、石州和紙の技術継承にもかかわる」という観点を追加してほしい。	文言追加。
2の中の模倣品の流通は、「石見神楽面」に限ったことではなく、全てのものづくりに当てはまるので、「全てのものづくり」に変更してほしい。	文言修正。
2の中に、神楽産業の経営に関する問題を入れたほうがよいのではないか。社中の減少などによる需要の縮小により、経営が厳しくなり、後継者を雇うことが難しくなっている。需要の減少を受けて、新しい商品開発や販路拡大の取組につながると思う。	文言追加。
4の中に「神楽道具」が出てくるが、手に持って舞う「採り物」のことを想像させる。ここでは、ものづくりに関わるものなので、「神楽用具」としてほしい。	文言修正。
新規項目として、「知識と経験を有した石見神楽の舞やものづくりに精通し、適切な記録保存や活用などができる職員配置がない」を追加してほしい。	文言追加。

Ⅲ 保存・伝承すべきもの

修正意見	対応
1の中の「舞（演目）、舞い手（社中）」を「石見神楽伝承団体（舞、舞い手、楽人）」に変更してはどうか。	文言修正。
これまでの議論の中で挙がっていた「奉納神楽文化」を追加してほしい。現状と課題でも触れられているし、奉納神楽は諦めて、別の場所で儀式舞をやればよいと捉えられるおそれもあるため。	文言追加。

IV 提言

修正意見	対応
1 ②「花を打つ文化の継承」は、「社中の経営の安定化」の文脈で出すべきではないため、「①舞の文化の継承」に移動してはどうか。	文言移動。
1 ②「出演料引上げ」は、地元の奉納神楽の謝儀も引上げるべきというように捉えられるため、「イベントにおける出演料の引上げ」に変更したほうがよい。	文言修正。
2 ②に、「持続するための助成金などの支援の検討」を追加してほしい。	文言追加。
2 ②に、「商号を守るための取組の検討」を追加してほしい。	文言追加。
2 の本文中「行政と神楽産業従事者」としているが、例えば商標登録は行政や神楽産業従事者だけでは難しいため、この文言は削除したほうがよいのではないか。	文言修正。
3 ①に関連して、神楽団体や神楽関連産業従事者は、学校へのゲストティーチャーや店舗訪問対応に善意で対応している。これらを仕事として対応する石見神楽に精通した職員配置が必要。	「5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設と必要な機能について」の＜拠点施設が担うべき役割＞の中に記載。
3 ①に関連して、ものづくりにおいては、学校へのゲストティーチャーや店舗訪問対応は儲けに直結する。行政において金銭的支援や補償を検討してほしい。	2 ②に文言追加。
3 ①の「ホームページやSNSの充実」は、誰に求められるものか具体的な記載が必要と思う。 ⇒これまでの議論では、各神楽団体などの対応というよりも集約したものを充実させるべきという意見だったため、その方向性で文言修正したい。	文言修正。
3 ①の中に、例えば神楽団体が公演などで仕事を休む際に職場の理解や応援が得られるような「市民に応援されるための仕組みの検討」を追記してほしい。	文言追加。

3②について、市内各地に意匠（昔の面など）が保管され眠っているのに、これらを浜田市の大切な財産として後世に残すため、「余裕をもった収蔵施設が必要」ということを追加してほしい。	「5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設と必要な機能について」の＜拠点施設に必要な機能＞の中に記載。
3②について、拠点施設をどのようなものにするのが最も重要。多くの市民が望むような施設となるよう、神楽団体、ものづくり職人など神楽関係者を中心とした検討組織を立ち上げ、内容の検討がなされることを期待したい。	「Ⅴ 終わりに」の中に記載。
5について、新たな団体の役割を明確化する必要がある。この団体が中心ではなく、行政や神楽団体などができない隙間を埋めていくイメージでよいのではないか。また十分な検討が必要であり、簡単なことではない。	「5 石見神楽の総合戦略を企画立案・実行する新たな団体の検討について」を削除。 「5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設と必要な機能について」を新規項目立てし、＜運営組織＞の中に記載。
5について、新たな団体を立ち上げると、行政はそこに頼るため、その団体の負担がすごいものになる。	「5 石見神楽の総合戦略を企画立案・実行する新たな団体の検討について」を削除。
5について、拠点施設の設置がポイントになる。拠点施設を設置すると、運営組織が必要となる。その組織に何を担わせるか。「3②石見神楽に特化した拠点施設の設置」を5に新規項目として出し、その施設の中で担う役割という整理にしたほうがわかりやすいと思う。拠点施設では、ハコモノとしての面や衣裳などを保存・管理する施設とともに、地域に入り込んで教育活動などもできる人材配置も必要。どうやって石見神楽を残していこうか考えたときに、これらを備えた拠点施設の議論は避けて通れない。したがって、どこかの項目の中で出すよりも1つの項目として出すべきと考える。また、専門委員会としても、ハコモノありきの議論をしてきたわけではなく、議論の結果、拠点施設の設置が必要となったこともどこかで説明すべき。	「5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設と必要な機能について」を新規項目立て。 「Ⅴ 終わりに」の中に記載。